

# ねじねね

VOL 5 NO 1 (June 1960) —近畿甲虫同好会々報—

## 知床半島羅臼岳のオサムシ類

大倉正文

筆者はさきにアイヌキンオサムシが知床半島に産することを報じた(昆虫学評評. X. 1 P3)が、佐藤納氏が羅臼岳で採集されたオサムシ類についてメモしておきたい。採集日付はすべて1956年8月6日である。標本を御恵与いただいた同氏に厚くお礼申上げる。

*Carabus (Eutelocarabus) conciliator*  
*hokkaidensis* LAPOUGE, 1924

コブスジアカガネオサムシ 2♂♂

*Carabus (s. str) granulatus yezoensis*  
BATES, 1883

エゾオサムシ 1♀

*Carabus (Aulonocarabus) kuroilensis*  
*daisetsuzanus* KONO, 1936

ダイセツオサムシ 1♀

*Carabus (Megodontus) aino* ROST. 1908

アイヌキンオサムシ 1♂

*Carabus (Damaster) blaptoides*

*rugipennis* (MOTSCHULSKY, 1861)

エゾマイマイカブリ 1♂

*Cychrus (s. str) morawitzi* GÉHIN, 1885

セダカオサムシ 1♀

## 新 入 会 員

277  
278  
279  
280  
281  
282  
283  
284

## 住 所 変 更

276  
221  
226  
76  
9  
28  
193  
67  
66  
68  
273  
198

## 退 会

252  
137

### 展 覧 会 開 催 の お 知 ら せ

日本昆虫学会才20回大会(10月14~16日)を中心に日本昆虫学会近畿支部・日本鱗翅学会と本会共催で10月11日(火)~23日(日)の間「なれば高島屋」3階ホールにおいて「昆虫科学展」を開催いたしますが、本会からは本邦産甲虫分類標本30箱・外国産甲虫類標本10箱を始め多数出品の予定であり、在阪会員が分担して鋭意準備中でありますので同開催中は会員各位お話し合せの上是非御一見をお願いいたします。

# 月例会 (於 大阪市立自然科学博物館)

△第21回例会 昭和34年11月28日

出席者：藤田国雄・生谷義一・石田 裕・大倉正文・芝田太一

△第22回例会 昭和35年1月23日

出席者：藤田国雄・後藤光男・林 匡夫・日浦 勇・生谷義一・石田 裕・河野 洋  
大林一夫・大倉正文・阪口浩平・芝田太一・清水禎治郎・初田慶次・吉川正彦  
○阪口浩平：奄美大島森林紀行（カラースライド使用）

△第23回例会 昭和35年2月27日

出席者：藤田国雄・林 匡夫・日浦 勇・生谷義一・石田 裕・河野 洋・宮崎宗敏  
阪口浩平・芝田太一

△第24回例会 昭和35年3月26日

出席者：藤田国雄・後藤光男・林 匡夫・日浦 勇・木船梯嗣・河野 洋・大倉正文  
左藤正孝・芝田太一・柴田保彦・植田謙一

○林 匡夫：自然分類より見た天牛類の属の再検討

△第25回例会 昭和35年4月23日

出席者：藤田国雄・後藤光男・林 匡夫・生谷義一・河野 洋・村田武彦・大倉正文  
芝田太一

○村田武彦：シイタケのぼた木を加害するカミキリムシについて

△第26回例会 昭和35年5月24日

出席者：藤田国雄・後藤光男・林 匡夫・日浦 勇・河野伊三郎・大倉正文

## 似たような話しを聞きまっせ

水野 伸也

「今日は暑おましたなあー」「ほんまでんがなあ、そやけど暑おました割によく獲れましたぞ」「そうでんなあ、ホー時季がよろしおまんがなあ、やつぱり今にがすとあきまへんでー」「どの位獲りはりました、300でつか400でつか」「350でんがなあ」「そんなに獲りはりましたんか、そいで気嫌ええのや、どうだ難波で祝杯あげまほか」「よろしおまんなあ、沢山獲れよつたし、暑かつたんで冷たいビールで1杯はたまりまへんでー、ところで、あんたはんどうでしてん」「よろしおましたぞ420でんがなあ」「なんでんねん、自分のこと棚にあげはつて」「すんまへん、しかし今日はよろしおましたわ、なんぼでも獲れまんねん、きりおまへんがなあ、みんな獲りはりましたやろ、きはつたん5人でつしやろ、みんなで1500位でつか」「まあその辺だつしやろ、ひよつとしたら2000越えてんのと違いまつか」「そうだんなあ、そやけどあんたはんこれ始めはつてだいで獲りはりましたやろ、4斗樽に2杯だつたか」「むちゃ言いはりまんがなあ、あんたはんよか10年もあどでつせ、1杯もありまつかいな」「そうでつか、そんなことおまへんやろ、シーズンの毎日旺はよろしおまつけど、雪の降る冬でも毎日旺行つたはり

「まんがなあ」「そやけどお互いによく役してまんなあ」「ほんまでんなあ」

これを読まれた地方の虫屋は大阪の虫屋はなんとガメツイと早合点されては一寸困ります。何も大阪の虫屋の話ではありません。勤めの帰りに地下鉄車内で聞いた大阪弁まる出しの魚釣のオッサンのおしやべりであります。私はこの話を毎月才四土曜日(注)に博物館である同好会の例会に出席してM.T. I.H氏等の話題と思い合せて趣味の道では同じような話しを聞くものだと言快になりましたので、余白を借りてお伝えしたまでです。

昭和34年度収支計算書

収入の部		支出の部	
入金金	1,300-	印刷費	129,588-
会費	67,620-	通信費	17,734-
バッチナンバー代	11,500-	消耗品費	3,365-
別刷代	14,903-	大会費	4,507-
原色昆虫図鑑才4刷印税	42,211-	幹事会費	1,290-
大会費	3,170-	合計	<u>156,486-</u>
雑収入	3,067-	差引	
前期繰越金	<u>115,840-</u>	次期繰越金	<u>103,125-</u>
合計	<u>259,611-</u>		

才12回大会開催のお知らせ

本年は日本昆虫学会の才20回大会が大阪で開催されますので、本会の年次大会を次のように予定しております。本年の大会は例年のように大阪近畿各地の会員各位だけでなく全国各地の会員の御参集を得て盛大なる近畿甲虫同好会才12回大会が開催されると楽しみにしております。なお、いづれ改めて詳細はお知らせ致しますが、あらかじめ御心積の程を願っております。

日時：昭和35年10月15日(土) 午後5時より

場所：くいだおれの名に恥じない、味がよく、量があって安いところ

会費：飲んで、食って、しゃべって、1000円のみもり

後記にかえて



やつとの思いで評論と同時発行が出来ました。前号でお知らせしましたがもつとバラエティーに富んだ「ねじればね」と思っていたが、原稿の集まりが悪くて見られるような従来通りのものとなって申し訳なく思っています。評論の方も1巻の前号は原著、後号は解説を主とした編輯方針で進みますので「ねじればね」もこの線に副うよう進んで行きたく思っています。

採集地・内・変わった採集法・採集記録等の原稿をお待ちしております。

原稿投稿先：大阪府泉北郡高石町北六ツ方 後藤光男